

# 大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド地区）事業協議会

## 第 11 回会議録

■日 時：令和 3 年 2 月 26 日（金）13:00～15:00

■場 所：六甲アイランド CITY ふれあい会館

■出席者：別紙のとおり

以下、○：六甲アイランド CITY 自治会管理組合及びまちづくり協議会

●：国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所

◆：阪神高速道路(株) 建設事業本部 神戸建設部

◇：神戸市 建設局 湾岸・広域幹線道路本部 推進課

▲：(株)長大

■協議資料：

- ・議事次第
- ・資料 1-1 大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド地区）事業協議会 第 10 回会議録
- ・資料 1-2 指摘事項と対応状況一覧表
- ・資料 1-3 指摘事項と対応状況についてのまとめ
- ・資料 1-4 自動車排出ガス常時監視測定局の設置要望への回答
- ・資料 1-5 ヘッドライトの影響について
- ・資料 1-6 計画及び工事に関するご意見への回答一覧
- ・資料 1-7 臨港道路の歩道の清掃活動の状況
- ・資料 2-1 遮音壁の素材について
- ・資料 3-1 六甲アイランド地区 高架橋工事状況
- ・資料 4-1 大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド地区）事業協議会 運営に関する基本的事項
- ・資料 4-2 六甲アイランド地区での事業概要等パネル展示について報告
- ・資料 4-3 リーフレット「海の道便り」

■結果の概要：

[工事関係者による清掃活動について]

- ・工事関係者による清掃活動状況について報告した。
- ・清掃日は、別途実施されている地域の清掃活動日を踏まえて検討する。
- ・清掃活動の実績は実施日一覧と写真を添えて定期的に報告する。

[ヘッドライトの影響について]

- ・ハイビーム時のヘッドライトの影響について屋外での実験結果を報告した。
- ・ヘッドライトの位置が高い車種を想定し、連続的に複数台の車両が走行することによる影響について資料を補足する。
- ・既存ランプに設置されている落下防止フェンスの設置理由を確認する。
- ・ヘッドライトによる影響を防止するために遮音壁の延長を伸ばす要望に対する事業者の見解と理由を明らかにする。

[遮音壁の素材について]

- ・遮音壁の素材（透光板/非透光板）について特徴等を説明した。
- ・太陽光の反射の影響について資料を追加し今後協議を行う。

[その他]

- ・指摘事項を踏まえ資料を追加し協議を継続する。

■会議の経過：

1. はじめに

◇：(協議会の主旨を説明)

2. 前回協議会等でのご指摘事項と対応状況

●：(資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3、資料 1-4、資料 1-5、資料 1-6、資料 1-7 を説明)

- ：資料 1-7 で臨港道路の清掃を月一回実施いただいているが、第何週の何曜日と決めて定期的に行われているのか。
- ：第何週の何曜日という決まりは定めていないが、工事の場所毎に施工会社が付近の歩道を、概ね月に 1 回程度定期的を実施している。
- ：各社の持ち分をバラバラに月 1 回実施しているのか、同日に一斉に実施しているのか。
- ：工事ごとに現場で作業する協力会社等が日々変わるため、同日ではなく、工事毎に、管理する施工会社が協力会社等と打ち合わせをして日を決めている。
- ：周辺道路は地域振興会や企業が主体で時々清掃活動が行われているため、その直後に清掃してももったいない。上手くスケジュールを調整してゴミが溜まらないようになるのが一番いいのではないかと思う。また、島内では至る所で自発的に清掃をされている人もいるので、清掃日が決まっているのであれば一緒にやろうかと意識を持つかもしれない。施工会社が一斉に清掃するならばその日を教えてもらったら協力できるということがあるかもしれないが、今の状況だとちょっと難しいのかもしれない。
- ：ご意見を踏まえて工事業者とも調整し、地元で清掃されている日も踏まえて相談させていただきたい。
- ：周知できるような体制であればしていただければいいと思う。
- ◇：複数の業者がバラバラに月に 1 回ずつやってくれるのであればそこそこの頻度になる側面もある。現状を把握いただいて調整できればそれに越したことはない。
- ：今後工事が長丁場になる中で、場所が変わっても継続的にこのような活動をしていただくことは大事だ。折角こういことをやっていただけるのであれば、実施日の一覧表と写真を定例的にレポートしてもらうことで住民への PR にもなると思うので、ぜひ記録をして欲しい。
- ◇：そういうことは結構大事だと思うので、神戸市からもお願いしたい。記録を代表の方にお渡ししておけば、立ち話でも話題にして頂く機会はあろうかと思う。まずは状況の把握と、どうするかは相談して報告させていただくということ。
- ：実施日の一覧表のうちのいつの写真がこれと分かる様に工夫する等して、継続的に月単位でまとめていただければよいと思う。
- ：承知した。
  
- ：資料 1-5 の 4 頁の下の方に、「ハイビームによる影響は小さいことがわかりました。街明かりのある状況下では、更に影響は小さくなると考えられます。」とあるが、全体的にあまりにも安易な言葉遣いではないか。ヘッドライトのビームが当たる範囲というのは点ではなく、E3 の建物の東の面から北の面に向かって動くので、そのシミュレーションをしていただきたい。ここまでやっていただいているので、より具体的に示していただきたい。あまりにもいい加減な結論を出そうとしているから申し上げる。
- ◇：例えば、E3 よりも近い E5 で、E5 の共用スペースのような地点から既存道路の影響を撮影すれば同様の状況を安全側で検証できるのかもしれないが、E5 に適した共用スペースがなければできない。なにかいい方法はあるだろうか。
- ：E4 や E5 で観察することは考えられないことはないが実態とずれる。C 点から D 点へやや下り勾配で、地上高 1.2m に取り付けられたヘッドライトからある程度決まった角度で照らされる現象を 2 次元的にシミュレーションして欲しい。
- ◇：例えば CG などを用いても精度が上がるものでもなさそうだが、動画で再現するようなことをイメージされているか。
- ：動画は不要。E3 の東の面の何階の部分に光がどれだけの幅で当たるのか。車が進行すると今度は E3 の北の面に当たるのでその幅を描いてもらえばいい。
- ◇：ヘッドライトは光が広がるのでそれを考慮したような検証ができないか、と。
- ：資料には「街明かりのある状況下では」と書いてあるが、この周辺は「街明かり」などはない。建物の横を車が走っていくのだからそれによる影響を知りたい。資料では光の向く方向の影響についてのみ示されているが垂直方向にも照らされる幅があるのでそれを描いてもらいたい。どの範囲をどれだけの Lx の光が当たるのかということをシミュレーションしていただきたい。そう

でないといE3に持って帰れない

- ：表現の仕方を工夫しなければならないので、少し検討させていただきたい。例えば紙で示す資料となると、動きというのをどう表現するか考える必要があると考えている。
  - ：資料1-5の1頁目のC点D点から、やや下向きの光線が更に西の方に向いていくので、それがE3の東側の建物の何階部分にどれだけの幅で当たり、さらにはその光が西に進む。
  - ◇：イメージされているのは、車が走った時にこの範囲に当たり、それは上下にも幅がある、ということ、光の当たる範囲に着色するようなイメージか。
  - ：そういうことだ。資料では点の光源だけで示されており説明できない。「E3の建物へのヘッドライトの当たり方について資料を作成してもらえると、28日の理事会で言えるかどうかの答えを今欲しい。
  - ：検討させていただく。主旨は理解したので、この範囲に当たるということを表示して皆さんにお分かりいただけるような形で資料化しそれを基に相談させていただきたい。
  - ◇：分かりやすい説明資料を事業者を検討いただく。
  - ：E3の中では今更事業に反対はできないとみんなに説明して納得してもらっている。私は住民に対し説明する責任があるので、それをやっていただかないと困る。街明かりとかいう文学的な表現はナンセンスだ。
  - ◇：ご指摘の点については深く理解できたので、準備いただくよう事業者へお願いする。
- 
- ：資料1-5の3頁の車はトラックのように見えるがヘッドライトは路面上何mの高さにあるか。
  - ：乗用車でミニバンを使用している。
  - ◇：光が上下方向にひろがるということ考えずに距離について検証しようとしているので車種のごことはあまり意識せずにされているのでは。
  - ：路面からどれぐらいの高さにヘッドライトが付いているのか知りたい。また、ABCDからの距離は100m単位で示されているが実際は何mか。
  - ：わかりやすい数字ということで丸めて示しているが、図面上で距離を測った数字をお伝えすると、A地点からE4までが540m、B地点からE5までが310m、C地点からE4及びD地点からE3までがいずれも430m。
  - ：分かった。
  - ：ヘッドライトの高さが1.2mというのはトラックか。
  - ：法律の中で決められている上限が1.2mで、1.2m以下にしないかと定められている。
  - ：実際にはトラックのヘッドライトの位置が少し高いのか。乗用車だと地上何mか。
  - ：乗用車の具体の数字は今持ち合わせていないが、大型車の方が少し高い傾向にあるかと思う。
  - ：乗用車の場合路面から1mの高さの高欄で遮られる可能性が強いので、ヘッドライトの位置の高い車種、代表的な地上高の位置でシミュレーションしてはどうか。
  - ：高い方でシミュレーションしてみる。
- 
- ：現実に肉眼で見ると映像から抜き取った画像は違って難しいと思うが、資料には理論値に基づく説明が足りないと思う。光源から距離が離れるにしたがって、その時の天気や湿度で照度は変わると思うが、そういうことのない乾燥空気の中で理論的に400m離れたときに照度はいくらになるのか、理論値がすぐ出せるはず。計算して出した後、実際にやってみた結果、照度がこうだった、理論値に対して合っている、という形が本来のレポートではないか。実測値に基づく説明も非常に重要ではあるが、単にそれだけでは、あまりに稚拙なレポートだと思った。光源があって距離が離れたらどれだけ明かりが減っていくのか、単純な話だ。その際に街中であるなど色々な条件があると思うが、その時の環境については若干補正を理論式の中に入れて、理論的にはこうなった、実験結果はこうなった、という理論値と実測値の比較表及び理論予測に対する実験結果考察がないとちゃんとしたレポートにはならないと思う。
  - ◇：照らされる幅をどう表現するかという事を考えるとおっしゃるようなことを加えないといけない可能性が高いと思うので、ご意見として受け止めていただいて事業者で整理をお願いする。
  - ：今1台の車両のイメージで議論が進んでいると思うが、何台も車が並んでハイビームで照射される場合の影響も知りたい。
  - ◇：ライトは前の車に当たったりするだろうが、車の進行に従って帯状に広がっていく範囲が最大の影響範囲かと思いながら話していたが、その点についても検討の過程で想像力を働かせて、車両は1台じゃないということも考慮しながら精査していただきたい。
  - ：承知した。

- ：遮音壁の設置区間をD点まで伸ばしたら問題ないのでは。それが一番の解決策だ。
- ：遮音壁は基本的に騒音に対して設置するものであり、他の理由で設置するとどんどん設置範囲が伸びてしまう可能性がある。今回は検討の結果この範囲が適切と判断している。
- ：しかし現実には光の問題が出てくる。例えば資料 1-5 の 3 頁の右下、0.2 が 1.2Lx となっている弱い光でも移動して動的に感じる。静的に感じるのと動的に感じるのでは人間の感じ方も変わると思う。カーテンを閉めてしまえばということではなく、動的にどれだけの影響か。
- ◇：そういうご心配も含めて、今日の資料では不十分だというご指摘を頂いているので、今日頂いた意見を踏まえてもう一度ご説明いただけるような資料を事業者には検討いただく。
- ：もう一度尋ねるが、遮音壁設置区間をD点まで延長することはできないのか。
- ◇：遮音壁の設置範囲の考え方は明確に今まで議論してきたことだと思うが、それをご存知の上で改めて聞かれているわけなので、事業者の考え方を改めて明確にお伝えしていいと思う。
- ：遮音壁を延長することで遮光の範囲も広がる。
- ◇：そういう疑問が住民の方から出た場合に、お答えできるように。
- ：答えをご説明できるように用意する。
- ：先程の説明の内容では、遮音壁は 1m 全区間についているのではないのか。
- ◇：遮音壁とは別に、遮音壁を設置していない状態でも全区間に 1m の高さの腰壁のようなものが設置されることをご説明した。それとは別に音が漏れたら具合が悪い、例えばマンションが近い区間に遮音壁を設置する予定としている。
- ：B の絵でいうとどれが遮音壁か。
- ：B にはなく、D の奥で盛り上がっているのが遮音壁だ。
- ◇：ここまでは音が漏れても小さい音なので大丈夫、ここは家から近くなるので音を抑える必要があるということで、遮音壁をここまでつけるとしている。ただ、遮光効果もあるから伸ばしてもらってもいいのではというご意見をいただいた。
- ：遮音壁も色んなパターンがあり、透明なものもあるので、遮光も必ずというものではない。これについても後でご説明する。
  
- ：今の計画では、C 点 D 点付近は腰壁だけで B 点のようにネットフェンスをつけることは検討されてないのか。
- ◆：現時点では計画していない。
- ：B 点はなぜネットフェンスを設置したのか。
- ◆：すぐに回答が出せないので確認する。
- ：もしカーブ地点でなにか物を投げられたら困るからという理由ならこっちも同様なのでは。
- ◆：基本的に柵を設置しているのはそういう意味合いだが、なぜこの場所でどういう経緯でつけたかは今回答できないので確認する。
- ◇：基本的には落下物が落下すると具合が悪いところに設置される。
- ：その意味は分かるが前は付けて今回付けないのはなぜか。
- ◆：D 地点付近で付けないというのではなく、計画段階にまで至ってないという状況だ。
- ：B 時点では左向きに曲がっているので、スピードが出てトラックの荷台から品物が遠心力で飛ぶという危険性は推定できる。
  
- ：高さ 8.2m の遮音壁と 6m の遮音壁の境目には斜めに擦り付けた形になっているが、高さ 6m の遮音壁から 1m の高欄のところには考慮されてないように見える。
- ◇：確かに 2 頁の絵は直立しているように見えるが、斜めに擦り付けられている。
- ：見栄えのいいカッコいい形状にしてほしい。
- ：擦り付くような形にしている。まだイメージの段階なので、もう少し具体的な設計段階にはいい形に検討する。
- ◇：ちょうど遮音壁の話になったので、遮音壁の素材についての議題に進みたい。

### 3. 遮音壁の素材について

- ：(資料 2-1 を説明)
  
- ：13 頁に記載されているのは遮音壁の総延長に関するコストか。
- ：はい。1 頁目に記載の総延長 1350m を整備したときの概算金額である。
- ：すべて材料と設置手間を含んだ直接工事に必要な費用と考えていただければよい。
- ：1m 当りに換算するとそんなにびっくりするような金額ではない。これなら E3 の前の東の方へ伸

ばしてもらっても大した金額にならないのでぜひお願いする。

- ：資料を見て感じるのは、見てくれもあるが本質的には音と太陽光の反射光だと思う。遮音壁だから音が大切かと思っていたが、比較すると素材によって1dBしか変わらない。太陽光については反射光がW20にどの程度届くのか。「眩しい！」というのが結構あるのか。
  - ：現在検討はしているがどのように説明したらいいのか悩んでいるところ。反射する可能性はある。
  - ：阪高で今まで周辺住民からの苦情や裁判沙汰になっている等、事例があれば教えて欲しい。遮音効果の1dBについては、以前から1dBで攻防してきたのだから1dBを軽んじることのないようお願いしたい。65dB以下は当然であるが、その中でも少しでも低くなるようお願いしたい。化粧パネルには防音効果はないのか。
  - ：化粧パネルは名前の通り外観を良くする部品であり、防音効果を担保しているものではない。遮音壁に重ねるということで物理的に考えれば多少防音されるかもしれないが、ここで申し上げている1dB程度以下よりもっと小さいと考えている。
- 
- ：金属板や化粧パネルでも、アクリルやガラスと比べると少ないかもしれないが、太陽光の全反射はあり得るのではないかと思うが、塗装で克服できるものなのか。
  - ：この場での答えは持ち合わせていないが、今メーカー等へヒアリングしている。
  - ◇：太陽光の反射が、苦情が生じるようなレベルであれば、数として多く集まるような気がするので、阪高へどのような要望が来ているのか確認いただきたい。
  - ◆：一度調べたが、神戸の管轄内では透光板に対する光の反射についての苦情はほぼ無い。唯一あったのは、おそらく透光板の建付けが悪くなり板がグラグラしたために、水面のように揺らぐような反射光が当たってしまい苦情をいただいたことがある。
  - ：それはきっちり取り付けることで直ったのか。
  - ◆：はい。一般的に透光板に対して反射して眩しいといった苦情は見当たらなかった。神戸線に透光板が設置されているが、その付近では民家との距離は大体数十m程度。六甲アイランドではもう少し離れている。
  - ：遮音壁がマンションの北側にあり、しかも東西に走る遮音壁の上部は曲面になっているが板そのものは平板が重ねてあるだけだ。ということはまさに少しずつ取付角度が異なる平板毎に全反射を起こす。しかも（3次的に）夏と冬で太陽高度の違いにより入射角が変わると共に、日の出から日が落ちるまでずっとひとつの平板に対してある範囲（+90度～-90度）にわたって入射角度で動いていく。W20の7階辺りから上の階に対して、簡単にシミュレーションできるはずだ。真夏と真冬で太陽高度が変わるので、全反射光による被害をうける階高（夏は高層階、冬は低層階）が変化する。真正面だけではなくなかなか反射しないが入射角がある程度傾いてくると全反射する。透明板でも全反射するはず。これは計算で簡単にできるはず。日中で太陽が動いたときに必ず午前と午後の2回、全反射するときができるはず。これも理論的に簡単に計算できる内容だ。代表的な地点だけをやらしてもらったらいと思う。真夏と真冬、日の出から、10時くらいから正午、夕方の3時か4時くらいでいいはず。あとは各階あたりに対してどのぐらいなのか。非常に簡単に計算できるはずなのでぜひやっていただきたい。
- 
- ：13頁のタイプAの第二京阪の写真が化粧板有りとなっているが、化粧板は付いていないのはいいか。骨が見えているように見えるので後で確認していただくように。また、化粧板が付くことで遮音効果があるのではという話について、14頁の断面図をみるとここにもう一枚化粧板が追加され鉄板としては3枚入る形になるが、化粧板は遮音壁の背面にぴったりくっつくのか。遮音壁と化粧板の間に空間があるのであれば遮音効果が出てくるはずだ。
  - ◆：色々なタイプがあるが、遮音板はH鋼に挟み込むように設置し、化粧板はH鋼に取り付けるので隙間がある構造になる。
  - ：数値には出せないが遮音効果としては考えないということで有利に働くと見ればよいと理解できる。
- 
- ：5頁にポリカーボネートとアクリルとガラスが示されているが、今回透光板にするならこれと決まっているのではないのか。まだ迷っているのか。
  - ：総合的に判断したときに通常であればポリカーボネートを選ぶというのは方法としてあるが、これまでの協議の中で、神戸線ではかなり黄色くなって見えなくなっているというご意見もあったため、種類としてはこの3種類があることと、それぞれの性質についてご説明した。

- ：住民の希望によってはガラスにすることもあるのか。おそらく気持ちとしてはポリカーボネートにしようとしていると思うが、あえて3つを選択肢に挙げている理由は。
- ◇：今までの経緯を踏まえ色々説明して理解していただく主旨で、実績のある素材について説明しているが、透光板にするのであれば事業者としてはポリカーボネートで進めさせていただきたいという考えだと私も認識している。
- ：比較として資料を出してもらいたいのはいいが、概ね決まっているのであれば初めからポリカーボネートを囲ってもらいたい。
- ：失礼した。種類として示させていただいた。
- ：アクリルは使わないのか。
- ：ポリカーボネートで進むというのは、私は構わない。選択肢がないのであればこれですよとしたうえで説明してもらわないと迷ってしまう。
- ◇：議論を妨げるものではないが、事業者のスタンスとしてはきっちりと情報提供した上で、今の時点ではポリカーボネートで採用したいという思いだ。

- ：8頁のように23年間経過してこれほど汚れても事業者としては清掃も何もしないのか。
- ◆：黄変は紫外線で材質自体の劣化によるため清掃して綺麗にできるというものではない。例えば割れる可能性があるとか、そういう場合には取替のタイミングにはなるが、直ちに遮音壁としての機能が失われるというところでもない。
- ：安全性の問題はない限り、景観だけの問題であれば手を加えないということか。六甲アイランドで透明板が5年10年経過し黄ばんだ場合にも、住民が景観上悪いから変えて欲しいといっても、安全上問題ないから取り替えないということか。
- ◆：住民の皆様の声を見做すということではないが、現場の管理としては遮音壁の遮音機能を維持している限りにおいては直ちに取替えるということではない。
- ：あくまで安全性に問題がなければ取替えられないと理解した。
- ：遮音壁の延長1350mでコストが仮に10億円とすれば、10mあたり740万円で意外と安い。更に東側は高さが6.0mで西側の8.2mより小さいので740万よりは安い。コストはそれほど上がらないのでぜひ検討いただきたい。後からヘッドライトのことを言われて手を加えるよりは数千万かければカバーできるとすればそういうやり方もあるのではないかと。ぜひお願いしたい。
- ◇：重ねてご意見と宿題を頂いたのできちんと議事録にも残しておく。
- ◇：今日は会場の都合上時間切れであるが、継続協議としないと消化不良と思う。この資料に肉付けする形になるかもしれないが継続協議とし、今日のところは一旦区切りたい。
- ：私の考えでは、W20では現に基準を超過しているのだから1dBの差は大きい。何のために遮音壁を付けるのか考えなければならないと思う。騒音の抑制を一番に考えるべきだと思う。

発言趣旨の補足説明；

これ迄の協議会において、僅か1dB前後の騒音値を下げる為に非常に多くの時間を掛けて条件設定や遮音壁の形状・高さを検討し、ギリギリの妥協点を見出して来たにも拘わらず、その遮音壁の形状・高さの変更検討を伴わないまま、1dB遮音効果が悪くなる透光型と非透光型の比較検討する事に疑問を感じている。即ち、透光型にする場合、非透光型と同等の遮音効果が出せる様に（即ち、1dB遮音効果を高める為に）、遮音壁を更に高くする等の追加措置が必要ではないだろうか？

事業者の補足説明；

“遮音壁の材質については、遮音壁の高さがより高くなる材質である透光タイプで検討していることから、どの材質（透光タイプ/金属タイプ）を選んでも予測値内の数字に収まるということになっている。”（大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド地区）事業協議会第9回会議録より抜粋）

つまり、透光型を採用することによって、遮音壁を更に高くする必要はない。

- ：透光板の場合と金属板の場合とで1dBの差になる根拠を、どういう意味で1dBの差となるのかを説明する資料を作って欲しい。透光板の場合も透過音はおそらく数十dB下がるはずだが、結果的に数dBの差という話になっている。実際に遮音板を透過したところで減音はどれだけあるのか、透光板と金属板でどれだけ違うのかを知りたい。透過音の減衰がある前提でみたときに、回折してくる音を含めて合成音としては1dBだという説明ができるはずだと思う。
- ：もうひとつお配りした鋼橋技術研究会の資料には、美観への配慮ということでドライバーからの視点と沿線住民からの視点について記載されているが、沿線住民からの視点の中をさらに2つに

分ける必要があると思う。今作ってもらっている資料は近くで見たときの沿線住民からの透光板のイメージであるが、距離が離れるとまた変わってくるはずだ。特に今回の場合アイランドセンター駅辺りから見た場合はかなり離れる。資料にあるような 43 号線の写真はすぐ近くだから沿線住民からの視点として意味があるが、遠くから見ると支柱の骨ばかり見えてくると非常に印象が悪くなる。そういう視点から、我々としてはもう少し細かく検討したい。

- ：8 頁の透光板の劣化状況の写真について、透光板の上側に空が見えるが、なにかシートを張っているだけでこれだけの色合いが変わっているのではないかと、調べておいて欲しい。
- ◆：今空が見えているところは、上の鉄板が日射を遮るため紫外線が当たらないので劣化していない。古い車はヘッドライトが黄色くなっているのがあると思うがそれと同じで、日当たりが強いほど黄色くなる。東西に伸びる道路なので日光がまともにあたってしまいうためここまで黄色くなっているというのが現状だ。
- ：それだったら徐々に色が変わってくるはずでは。この写真では境目が明確になっている。
- ◆：太陽が上から当り上のところには影ができるのでそこは黄色くならない。
- ：下の写真ではそうは見えない。
- ◇：なにかフィルムを張っていることが影響しているのではないかと質問ですが。
- ◆：後からフィルムを張るようなことはしていない。余談だが、清掃も透明度を確保するための清掃はしていないと文字で書いているが、いわゆる一般的な清掃は行っている。
- ：9 頁 10 頁 11 頁を経年でみるとえらく汚れている。
- ◆：区間によって使用している製品やメーカーが違うのでよくわからないところもある。

#### 4. 六甲アイランド地区工事状況について

- ：(資料 3-1 を説明)
- ◆：(資料 3-1 を説明)

#### 5. 運営に関する基本的事項

- ◇：資料 4-1 について、規約の変更を提案させていただくもので、後ほどご覧いただきたい。

#### 6. パネル展示のアンケート結果

- ◇：資料 4-2 について、パネル展示のアンケート結果記載したもので、後ほどご覧いただきたい。

#### 7. リーフレットの配布

- ◇：資料 4-3 については事業者が作成したリーフレットで 3/7 の新聞（朝刊）折り込みに入る予定のもの。後ほどご覧いただきたい。
- ◇：近いうちに継続協議として開催させていただく。

以上

第 11 回 大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド地区）事業協議会  
出席者

自治会	管理組合	氏名
	イーストコート 3 番街	西森 元亮(代理)
	イーストコート 4 番街	吉田 正文
	イーストコート 5 番街	嶋田 勉
	ウエストコート 3 番街	藤澤 隆文
	ウエストコート 4 番街	川原 賢三
	ウエストコート 20 番街	飯沼 岳
	執行部 (3 名) 会長	實光 良夫
	副会長	柏井 敏介
	副会長	宮脇 貴栄
まちづくり協議会	委員長	高橋 松夫
	事務局長	児島 金吾
	委員	西森 元亮
事業者	国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所	大阪湾岸道路整備推進室
	副所長	高橋 雅樹
	事業対策官	大西 健一 (前任: 谷 成二)
	計画係長	山口 秀樹 (前任: 上中 一弘)
	国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所	大阪湾岸道路西伸部出張所
	出張所長	石原 寛也
	阪神高速道路株式会社 建設・更新事業本部	神戸建設所
	湾岸西伸第一建設事業所長	岡本 太郎
	課長代理	吉田 高之 (前任: 遠藤 正隆)
神戸市	神戸市 建設局 湾岸・広域幹線道路本部	推進課
	推進課長	武田 史郎
	担当係長	大城 泰久 (前任: 藤井 宏一)
	調整担当	宮本 郁美
【その他関係者】	(大阪湾岸道路西伸部環境調査他業務 受注者)	
	株式会社 長大 環境事業部 社会環境 2 部	
	担当	富所 康子
	担当	高田 学